

○ 株式会社ヨコオは、自社で製造した鶏ふん堆肥を耕種農家の圃場へ直接散布し、耕種農家が生産した飼料用米を自社ブランド鶏「みつせ鶏」の餌として仕入れる耕畜連携に取り組んでいる。

■ 国内資源の種類 ■ 肥料の種類・肥料名称

・ 鶏ふん

- ・ 種類：特殊肥料（堆肥）
- ・ 肥料名：ヨコオのエコロパワー
ヨコオの土づくりの素
（ペレット堆肥）

■ 作物 ■ 主成分の含有量（%）、特徴等

- ・ 飼料用米
- ・ 水稻
- ・ 麦
- ・ 施設野菜 等

N	P	K	C/N比
3.4	6.6	7.7	8.9

- ・ 堆肥成分等検査報告書（2020年4月30日）
- ・ 約90日間かけて完熟発酵させるため臭気が少ない。

■ 取組の経緯・内容・成果（見込み）

取組の経緯

- ・ (株)ヨコオは、肉用鶏の生産から食肉加工・販売までの一貫経営を行っており、佐賀県、長崎県、大分県の3県に直営農場を所有している。ヨコオでは農場の規模拡大により、鶏ふん処理が大きな課題となっていたが、自社での堆肥製造に取り組み、地域に還元できる良質な鶏ふん堆肥を生産している。

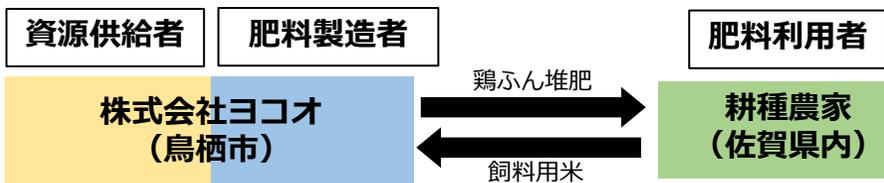
取組の内容

- ・ ヨコオでは、自社で製造した鶏ふん堆肥を耕種農家から委託を受け、圃場へ直接散布するほか、ペレット化した堆肥の販売を行っている。耕種農家は、その鶏ふん堆肥で栽培した飼料用米をヨコオが自社ブランド鶏「みつせ鶏」の餌として仕入れる耕畜連携に取り組んでいる。また、飼料用米のほか、タマネギやキャベツ等の野菜を栽培する生産者の圃場へも供給し、循環型農業を構築している。

成果（見込み）

- ・ 鶏ふん堆肥と飼料作物の循環を繰り返すことによって、互いに品質を高め合う良好な関係が築かれている。
- ・ 当社の鶏ふん堆肥を利用している耕種農家から高く評価され、どの作物にも利用できることから、耕種農家による作付けの選択肢の幅を広げることが出来た。

■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■ 今後の課題・取組

- ・ 堆肥製造から圃場への散布まで一連の作業の中で、従業員の高齢化が進み、安定供給を続けるための担い手の確保が課題。
- ・ 施設整備などに掛かるコストに見合う価格での販売が困難で、資金を確保しながら、企業として持続可能な循環型農業を確立していく事が課題。

